

富士登山

ふちんかん

0. はじめに

富士山一度も登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿
という言葉があるらしい。一度登れば十分な山…だというのに。

一昨年・昨年と家族で登り十分に堪能した富士山である。今年は私一人。そりゃそうだ。

今年は青春18きっぷを利用してチープに、そして御殿場ルートというドMルートを一晩かけて登り、未だ通ったことのない吉田ルートで下りるというプランを持って、3年連続となる富士山に挑戦することにした。

ということで今までやったことのないアプローチで臨む、「最終回」の富士登山である。

1. 行程

- 7/29(火) 予定日の前日、昼から仕事を休んで急遽、旅行開始。新幹線で新富士へ行き、バスで富士宮ルートで夜間登山開始。プリンスルートで宝永山にのぼる。
- 7/30(水) 宝永山から御殿場ルートに入り、午前中に富士山登頂。吉田ルートで下山。ビジネスホテル泊。
- 7/31(木) 青春18きっぷで帰路につく。



富士登山



2. 登山開始まで

新たに購入したのは、大きなヘッドライトである。さすがに夜間の単独行なので、すでにある一灯では不安だからだ。あとはこれまでの登山で買いそろえた物でまかなえた。

今回は闇夜の夜間登山（月は三日月なのですぐに沈む）ということで、星の撮影にもチャレンジ。買ってみたいもののあまり使ったことのなかった簡易赤道儀とコンパクト三脚をデジカメとともに持参した。



左下にあるのが簡易赤道儀。北極星に向きを合わせると、星の日周運動に沿って「じわぁ〜」と回転してくれる。これによって長時間撮影でも星が流れることなく撮影することができる。右の写真が使用する際の様子である。

リュックには大量の食料と現地で着る防寒具でパンパン。往復は普段着で過ごしたかったので、登山靴はビニール袋に入れてリュックに括りつけた。

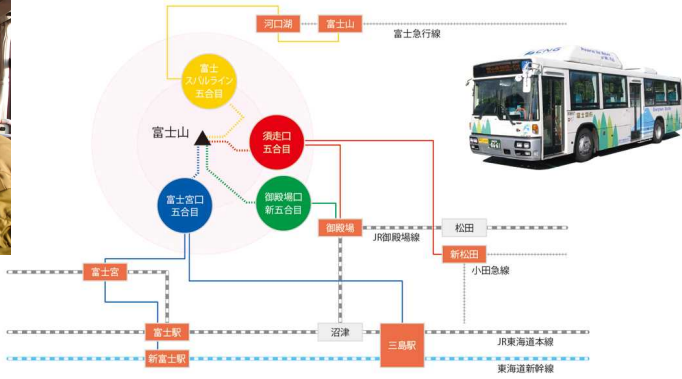
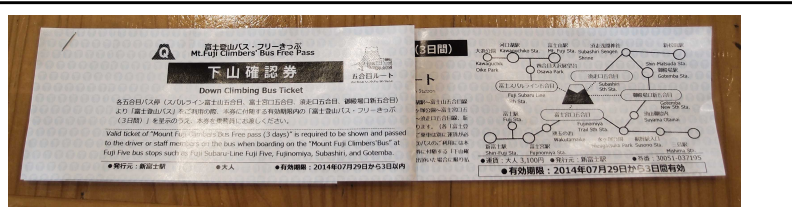
さて、用意万端、出発を待つばかりとなったのだが、どうも雲行きが怪しい。当初は7/30に青春18きっぷで1日かけて、御殿場まで行き、その夜から登頂、という予定だったのだが、7/31は「くもり」の予報が出ていた。「くもり」予報は富士山では「雨」である。そこで急遽前日の昼から出かけることにした。新幹線を利用して新富士駅まで飛ばし、登りルートを御殿場ルートから富士宮→プリンスルートと変更することで丸1日前倒しすることにしたのだ。「御殿場ルートを一晩かけてゆっくり」という当初のプランは断念することにした。正直なところ、今年は忙しいことにかまけて、あまり気合いも入らず体重を減らすことに失敗していた。そんな状態で足を取られる砂礫ルートが延々と続く御殿場ルートに登ることに不安もあった。



新富士駅で食べた「かつ皿」
独特の食感だが、う〜ん…

3. 富士宮5合～宝永山

新富士駅からバスで富士宮ルート5合目へ。このバスには当初、私以外は全員外国人という客層だった。



17:45

新富士発

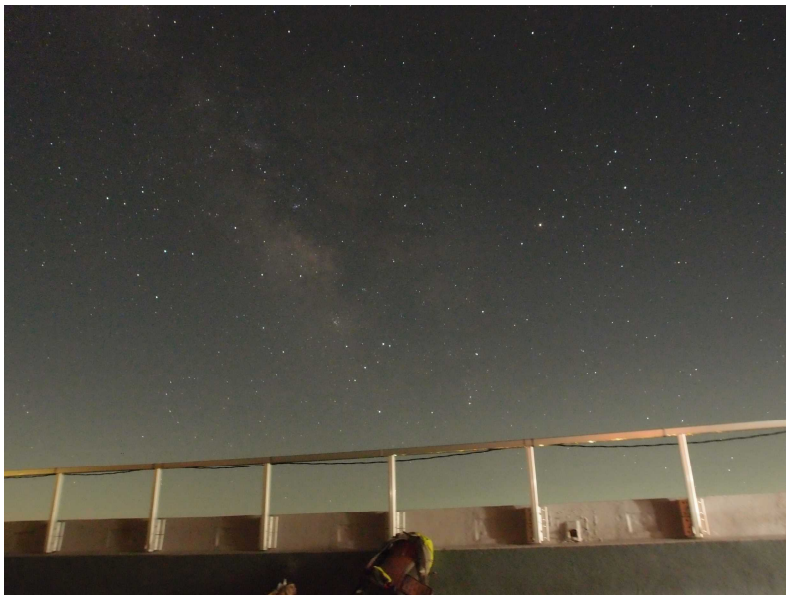
19:40

富士宮5合着

バスの中で夕焼けを見て、登山口に着いた

頃には日も暮れていた。防寒具を着込んで、登山靴をはく。高地順応のため1時間は滞在したかったので、カメラテストもかねて天の川を撮影してみた。

今回利用した「富士登山バス・フリー切符」
4つの登山口にアクセスするバスにフリーに乗降できる。
登りと下りでルートを変えたいときなど便利だろう。





富士登山



21:20 登山開始（富士宮5合）

このルートに登るのは3回目である。夜間登山は初めてだが、数人の下山の人とすれ違った程度で周囲には全く人がいない状態だ。ヘッドライトの先の草木が部分的に白く光るので、目印に夜光塗料でも塗っているのかと思って見てみたら、葉の裏の産毛のような構造に光が反射しているためと分かった。

6合目まで難なく登る。

21:45 富士宮6合着

21:55 富士宮6合発

ここからは富士宮ルートから別れて宝永山を経て御殿場ルートへと渡るプリンスルートに行く。一昨年の練習登山で苦渋をなめた区間である。それでも御殿場ルートを延々登ることを考えれば短いものだ、と自分を言い聞かせて…。

宝永火口までぐっと下って20分足らずで到着。ここはすり鉢状の窪地である。こんなところで落石に遭遇したらひとたまりも無い。実際周囲には落ちてきたと思われる巨石がごろごろしているし、YouTubeに投稿されている宝永火口の落石事故映像をみているので恐怖心が増してくる。周囲は真っ暗である。当然誰もいない。闇夜に一人お鉢の底…。

ヘッドライトを消してみると上空に星が瞬いている。この星は他の場所から、大勢でも見ることができるというのに、私は自ら好んで一人でこんな場所にいて、若干の恐怖と未開の荒野を開拓するような昂揚を感じている。なにか不思議な感じがした。

ここから1時間あまりかけて宝永山に登る。一昨年来たとき以上に砂礫に足を取られる。大股で歩いては口スが大きいので、小刻みに歩を進めるのだが、それでもすべる。思えば一昨年は背中に強風を受けて登っており、かなりアシストが効いた状態だったのかもしれない。今回は無風・寒冷・闇夜…なにか義務感のような使役のような感じすらする。それでも振り返って、お鉢の向こうに富士宮の明かりや星空を見ると、若干だが気が晴れるように思う。

23:30 宝永山登頂



這々の体でなんとか登頂。

ここで星空撮影をして大休憩とする。

写真は富士宮ルートと星を写したもの。稜線の大きな明かりは山小屋。小さな明かりは登山者のヘッドライトである。

次ページの写真は南東の空を写したもの。長時間露光と町の明かりで明るく見えるが実際は真っ暗である。冬の星座であるオリオン座が昇り始めている。右端にはすばる（ブ

☆☆☆☆ 29周年 記念原稿 ☆☆☆☆

レアデス星団) も見える。
宝永山で2時間ほど写真を撮ったり
食事を摂ったりして、いざ出発。

1 : 30 宝永山発



4. 宝永山～山頂

標識や石にペイントされた印に従って歩く。
ほどなく御殿場ルートと合流。こんな時間に下山してくる
人はなく、当然不人気の御殿場ルートを登ってくる人がそ
うそういるわけでもなく。相変わらずの孤独行である。
普通の山道だと怖くてたまらないだろうが、富士山は高地
すぎて樹木がなく、害獣に出くわす可能性が0であるとい
うのは大きい。今回は月が出ていないが、満月の夜ならき
っと月照で ほの明るい中を歩けることだろう。

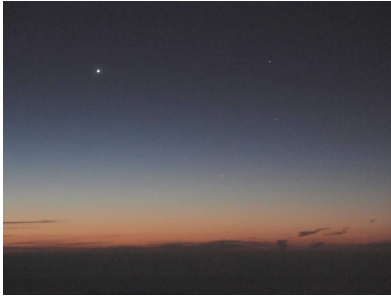
気持ちは初の夜間登山で昂ぶっている一方、体の方は
だんだん眠さと疲労との戦いになってきた。半分寝ながら
歩いている、が空気がうすく疲れているので途中で止まる。
このくり返しである。



標高3000mあたりで東の空を撮影



富士登山



3 : 4 0 7合5勺「砂走館」着

このあたりは朦朧としていたのか、記憶がないが、写真のデータを見ると30分ほど休憩しているようだ。

東の空に金星が美しく輝いている。

4 : 4 5 7合5勺～7合9勺の間で御来光。光があふれ、周囲の物に色が蘇り、意識もはっきりとする。



☆☆☆☆ 29周年 記念原稿 ☆☆☆☆

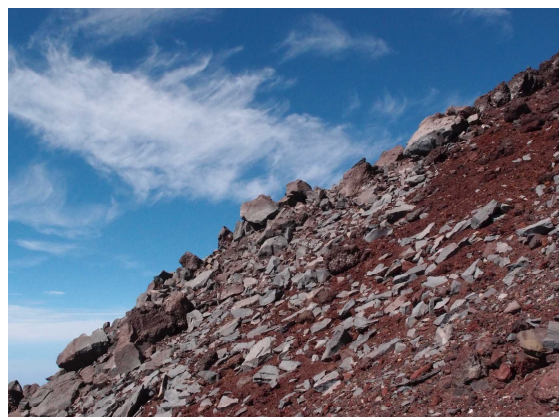
5 : 25 7合9勺「赤岩8合館」着
ここで朝食を摂る。登りながらいろいろと口にしていたので大して腹は減っていないのだが、一昨年食べたカレーの味が忘れられなくて、朝からカレーを食べることにする。



2時間ほど過ごした宝永山が眼下に見える。

6 : 15 7合9勺「赤岩8合館」発

人だかりができていますので、何かと思ったら足の不自由な人を登頂させるサポート隊であった。TVカメラも来ている。24時間テレビでもそうであったが、ハンデのある人が苦手分野でがんばることを（がんばらせることを）私は美しいとは思わない。ハンデのある人が同じ境遇でがんばっている人を見て、そんなに自分もがんばろうと思うだろうか。むしろ祭り上げられた人が途中リタイヤしにくいムードがそこにあり、その姿を見てがんばることに恐怖を覚えないか。富士登山とは全く関係ないが、ここに思いを記しておく。



さて、ここからは胸突き八丁の登りである。一昨年は十分な睡眠のあと、完璧な体調で大きな荷物は山小屋に預けて、ヒョイヒョイと登ったわけだが、今回はそうはいかない。なにせ寝不足・登り続け・体重増・荷物はフルである。良いのは天候だけ。つづら折りの登山道のコーナーごとに休憩しては登っていった。途中でバスで一緒だった外国人の一行と出会う。向こうも顔を覚えていたらしく声を掛け合う。富士宮ルートで登頂して、御殿場→プリンスルートで下山するのだろうか。



富士登山



こちらはあと少しとはいえ、まだ登山中である。

けっきょく赤岩8合館から山頂まで2時間35分(155分)。前回は80分だったからほぼ2倍の時間を要しての、それでもなんとか登頂を果たした。



8:50 御殿場ルート頂上着

ベンチで腰掛けた状態で1時間ほど寝てしまった。さすがにお鉢まわりをする元気はなく、最短距離で吉田ルートの下山口へ向かう。

天気は今回も良い。青空と万年雪・赤茶けた岩石のコントラストが美しい。



5. 下山



10:10 吉田ルート頂上発

昨年の下山道(須走ルート)と途中までは共用である。ブルドーザー道なので道も広く、すべるように下りたいところだが、膝に不安があるのでゆっくりとそして後ろ歩きも活用して下りる(それでも案の定、途中から右膝が痛くなってきた)。



上空には巻き雲が出ている。これは温暖前線の接近を示し、近々天気が崩れる予兆であることが多い。山小屋の上には虹が出ている。普通の虹は太陽と反対方向に出るが、これは上空の氷晶に光が屈折して見えるものである。

途中で小学高学年の男の子と中学生くらいの女の子を連れた家族連れに出会う。この家族とは最後まで抜きつ抜かれつという感じだった。女の子が爪か膝を痛めて、母親に肩を貸してもらって歩いているような状態だったので、お母さんに絆創膏をあげて後ろ向きに歩くといいかもしれませんと無責任なアドバイスをした。その後、女の子は回復したようだったから、まあ効いたのかもしれない。とにかく登山は下山の方がたいへんなのだ。体重が足、膝にかかる割合が多くなる。そして登頂後なので普段より疲労しているのだ。無理して100%の力で登頂したとするとあとが悲惨である。

11:30 須走・吉田ルート分岐

ここからは初めてのルートである。今まで混雑を嫌って避けていた吉田ルートを通ることで全ルート（一応は）通ったことになるのだ。



途中で落石よけのシェルターもある
(中の階段の段差がひどい)



こちらは噴火対策のシェルター



富士登山



しかし…これから富士山に登る人にぜひアドバイスしたいことだが…、「吉田ルート下山道は鬼畜」…楽勝ルートかと思っていたら思わぬ裏ボス登場という感じ。ひたすら砂礫のブル道を下るだけのルートで、途中で山小屋は一切なくトイレも一カ所しかない。しかも距離もけっこう長いのだ。これは富士登山の本や web にあまり書かれていないのだが、重要なことだろうと思う。特に体調不良や私のように膝を痛めたものにとって、延々と続くつづら折りの下りは心が折れそうになるだろう。登りの吉田ルートは山小屋もふんだんにあり、超安全なルートだが（だから混むのだが）、帰りは時間を取るなら富士宮ルート、山小屋を取るなら須走ルート、楽しさを取るなら御殿場ルートをお勧めする。

さてそんな下りをほぼ100%後ろ向きで踏破する。

途中で岩や樹の表面が人の顔に見えてくる幻覚を覚える。かなり頭の方も疲れているのだろうと思う。小学生の頃、夜間ハイクで一晩歩いたときも明け方には道路に置かれている物がうずくまっている人に見えて、どきとしたことがあった。半分睡眠しているときは、自分が恐怖を感じる対象だけは感じ取ろうとするはたらきがあるのかもしれない。となると私の場合は「ヒト」が怖いということだろうか。まあ今回は「ああこんなにも人の顔に見ようと思えば見えるんだなあ」と考える余裕があるあたり、完全には意識がおかしくなっていないかとは思いますが。



途中にあった倒木。
切り口のあたりがエイリアンの顔、
伸びた根が脚に見えた。
今見たらよく分からない。

14:20 吉田ルート6合目着

ここで登山道と合流し一気に人が多くなる。

15:10 吉田ルート5合目着

5時間かけて這々の体で下山。今回はかなりしんどかった。

大きなお土産屋が軒を連ね、さすが一番人気の吉田ルートの登山口であると認識させられる。

お土産屋で土産を買い、店長と荷物を送る交渉をする。リュックや登山靴を土産と一緒に送ってしまおうという作戦だ。幸い、大きな段ボールをもらい、着替える場所も貸していただけだったので、そこにサブバック以外の荷物を詰めこんだ。登山者から一気に観光者に変身。とても身軽な格好となって下山のバスに乗り込んだ。

